

## 第2章 授業改善の取組み

# 1 「授業改善公開授業」の取組み

研究部/専門性向上部

## 1. はじめに

令和5年度は『キャリア教育の視点から豊かな生活をめざして～集団参加～』、令和6年度は『キャリア教育の視点から豊かな生活をめざして～環境把握/やりがい・生きがい～』を研究テーマとし、本校のキャリアプランニングマトリクスに基づいた授業改善公開授業に取り組んだ。

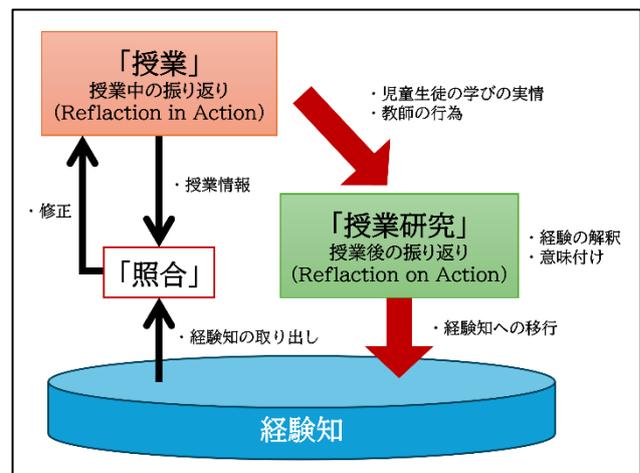
今年度も全教職員が必ず一つの授業を見学することとし、授業者及びその学習グループも「概念化シートの作成」という、よりフィードバックに重点を置いた取組みを行った。今回は、各学習グループで授業改善を重ねて作成した指導略案や使用教材、そして授業を振り返りながら作成した概念化シートやポスター等を中心に報告を行う。

## 2. 取組みについて

### 《取組みの経緯》

一昨年度まで取り組んできたテーマである【主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業づくり】については、「授業改善ふりかえりシート」の集計結果から一定の達成状況がうかがえたため、新たな取組みとしてキャリア教育の視点から本校で導入したキャリアプランニングマトリクスに基づいたテーマをもとに取り組むこととした。

研究部では、これまでの取組みも継続し、更に教員一人ひとりの授業力を上げていくためには授業の振り返りが最重要であると考えており、多くの教員から多様な視点の意見を取り入れるために、「概念化シート」を活用して、より質の高い授業づくりにつなげていく。



(青森県総合学校教育センター

「校内研修活性化のためのツールブック」より)

## 《指導略案の工夫》

「からだ(体育)」指導略案		
日時：10月19日(月) 3・4限 (10:50~11:40) 単元名：「ぐるっとバスケットボール」 ねらい：・ボールを持ち目的に向かって投げたり転がしたりすることができる。 ・友だちや教師と一緒に集団で身体を動かすことを楽しむ。		
2分	1. はじめのあいさつ	1. 主催者に注
5分	2. パラバールン	2. マットの 上り、パラ などへ反応
10分	3. ストレッチ体操	3. ストレッチ体操をする。 腕のばし一足の曲げ伸ばし一身体ひ ねり一寝返り一引き起こし一深呼吸
30分	4. ぐるっとバスケットボ ール	4. バスケットゴールまで移 動し、ボールを投げたり 転がしたりしてシュート する。シュート後、スタ ート位置まで戻り、次の 番の児童にタッチしたり 合図を送ったりする。待 っている間は、取り組ん でいる児童を応援する。 5. 3. 臥位や座位等、児童の障がいの状 態に合わせた姿勢で体操に取り組 めるよう支援する。 4. トラックにテープで繋げたコーン を配置し、ゴールを意識しやすい 環境づくりをする。 ・大きさ、重さ、感触の違うボール を用意し、選ぶことができるよう 配慮する。 ・3種類のゴールを用意し、転がす、 投げる、押し込む等ができるよう にする。傾斜台を用意する。 ・シュートを決めたらみんなで褒め て達成感をもてるようにする。
3分	5. おわりのあいさつ	5. 主催者に注目する。

隠形等

パラバールン・ストレッチ体操

ねらいを達成するための工夫・見所を記載する欄を設けるとともに、それらが授業の流れのどこに当たるのかを網掛けにすることで参観者にポイントがわかりやすくなるようにした。

ねらいを達成するための工夫・見所等

〈工夫〉

- ・バスケットゴールまでの移動やスタート位置まで戻る移動を児童それぞれの課題に合わせた方法で行う。
- ・シュートするボールを児童の実態に合わせて数種類準備。
- ・児童の実態に合わせて3種類のゴールを準備し、高さを調節したり、傾斜台を作成したりしてボールをシュートしやすいよう配慮した。

〈見所〉

- ・「ぐるっとバスケットボール」で、児童それぞれの課題に合ったやり方で移動したり、ボールをシュートしたりするところ。

## 《授業参観シートの工夫》

今年度は、概念化シートの作成を見据えて付箋を張り付けることのできるシートへの改良を行った。また、フィードバックに重点を置いたシートにするため、以下の項目を増やした。

授業参観シート

1	令和 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分
・教室	( 小・中・高 ) 学部 ( ) グループ ( ) 教室
授業者	教科・科目
ねらいを達成するための工夫・見所等	見所は授業開始 分ごろ(予定)です。

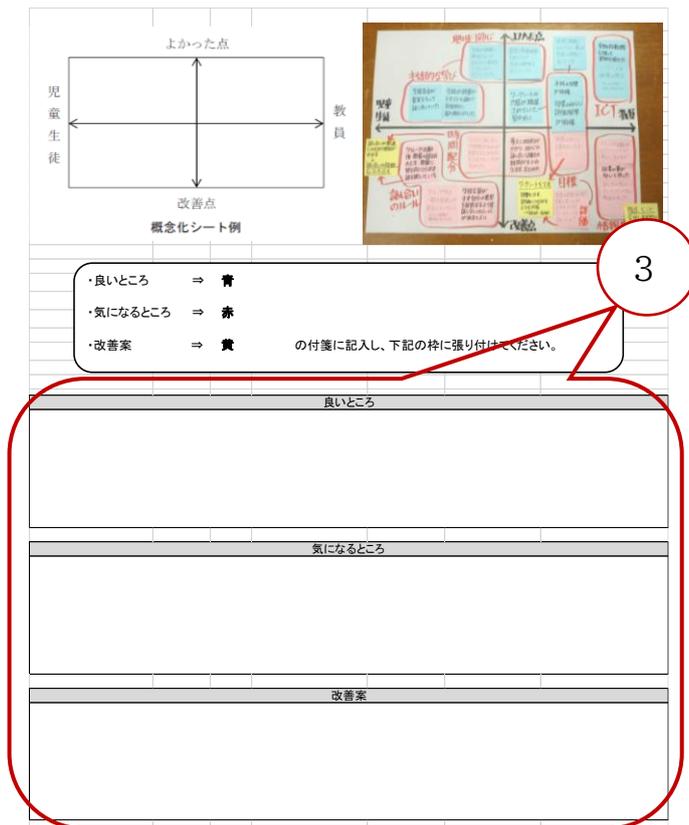
項目	観点	A→当てはまる B→やや当てはまる C→あまり当てはまらない D→当てはまらない
課題	本時のねらいに即しているか。	A - B - C - D
	課題提示の方法は児童生徒の興味関心を引き出していたか。	A - B - C - D
	課題の内容は、児童生徒にとって把握しやすく、適切なものであったか。	A - B - C - D
教材・教具	児童生徒の実態に合わせた教材・教具であったか。	A - B - C - D
授業構成の工夫	導入・展開・まとめの流れ、時間配分は適切であったか。	A - B - C - D
TT	教員間の連携が取れていると感じたか。	A - B - C - D
発問	口調・立ち位置は適切と感じたか。	A - B - C - D
	子どもの様子や変化を見逃さず、褒めること、認めること、声かけ等が適切と感じたか。	A - B - C - D
環境	明るさや教材配置、子どもの位置、動線などが適切と感じたか。	A - B - C - D

全ての項目にチェックする必要はありません。気づいた項目について適宜チェックをお願いします。

※裏面もあります。グループの幅に限り地使用しますので記入をお願いします。

① ねらいを達成するための工夫や見所を指導略案とリンクさせて記載し、参観シートでも確認しながらチェックを行えるようにした。

② 観点別にA-B-C-Dの4段階でチェックすることで、フィードバックする負担を軽減した。また、項目をチェックすることで、要因がどこにあるのかを探り、分析的な視点を得ることが容易になった。



③ 事後の全体協議の時間を設定することが難しいため、参観者全員が授業中に意見を書き込むことで、多くの視点からの意見を集められるようにした。また、付箋に直接記入することで、概念化シートの作成時にそのまま活用できるよう工夫した。

付箋の色は3種類

- ・青→良いところ
- ・赤→気になるところ
- ・黄→改善案

《概念化シートの工夫》

概念化シートの作成手順を各グループに配布し、研究部を中心にファシリテーター役を担い、授業の振り返りを行った。（※研究部員が授業担当者の場合は、学習グループ長がファシリテーター役を担った。）

**概念化シート作成の準備・進め方**

《 準備物 》

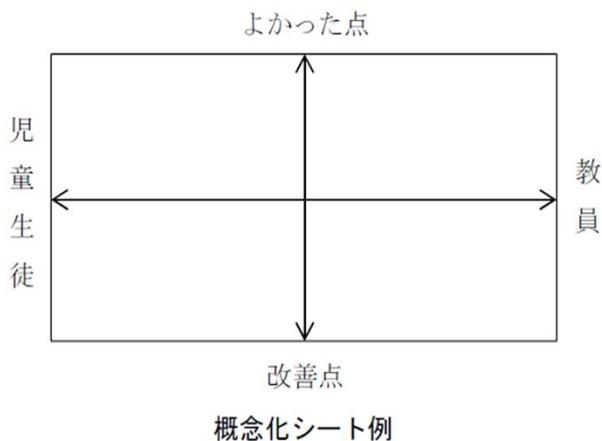
概念化シート     授業参観シート     付箋紙（青、赤、黄）     ペン（数色）

《 手順（例） 》

☆作成の前に、各グループの授業担当者以外の教員1名をファシリテーターとして選出してください。

1. 授業の良いところを付箋紙（青）に書く。	【個人】
2. 授業の気になるところを付箋紙（赤）に書く。	【個人】
3. 付箋紙をシートに貼りながら紹介し合う。	【全員】
※似たものは近くに貼りながら、4つの欄に配置する。	
※授業参観シートに添付されている付箋紙もあわせて活用する。	
4. 内容が近いものをまとめてタイトルをつける。	
※関係性を線でつなぐなどして構造化する。	
5. 改善策を考えるポイントを決める。	
6. 改善案を付箋紙（黄）に書く。	

概念化シートは、縦軸と横軸を設定し、4象限に仕切って整理するワークシートである。付箋の意見を整理し、具体的に概念化することで、実際に授業がどうだったのかを客観的に振り返ることができる。授業の課題と成果が整理され、今後の改善方法や方向性について共有しやすくなる。縦軸と横軸は自由に設定することもできるが、今回は『児童生徒』『教員』『よかった点』『改善点』に統一して進めた。



二つの軸は、取り上げる課題や話し合いのテーマによって自由に設定することができます。

青、赤の付箋紙には、解釈や判断を書くのではなく、事実を書き留めます。

教員の指導方法に対する意見交換だけでなく、児童生徒の学びの様子に着目し、学びの実情に基づいた指導の意見交換となることを目標とした。